

2020/12/13

(うと Q 世話し「15 年前の我が家の絵姿」私事からの引用話 )

「あくまで罵れ、他人の失敗。笑って誤魔化せ、自分の失敗」

「人がやれば不倫。自分がやればロマンス」

これらはいずれも

「人に厳しく、自分に甘い」の喩えです。

よくある話で、どこの国でも見かける光景です。

一方、今から 10 年ほど前、たまたま自分の地元の飲み屋さんで隣り合わせた厚労省だったか、その当時まだ厚生省だったかの高級官僚さんから

「我が国の人口問題は、子供が新たに生まれないことよりも、むしろ年配者が死なないことの方が問題なのです」

とドキッとするような本音話を聞かされたことがありました。当時たいそう驚いた記憶があります。未だに残っているくらいですから。

で、上の話に下の逆転の視点を重ね合わせてみると、以下の様なことが言えるかもしれません。

即ち

「他国ではあまり見られない、我が国の国民性から来る固有の問題としてあるその問題は、人に厳しく、自分に甘いことではない。むしろ人を責めるに厳しいことよりも、自分が相手やその条件を受け入れるのにあまりにも厳し過ぎる（あぁだ、こうだ言ってなかなか門戸を開かない）事だ」

と。

要するに周りを受容せず、事ある毎に垣根を高くして、周囲とのコミュニケーションを取らない、つまり give and take や win-win の関係が非常に成り立ちにくい事の方が社会的に見て、より問題なのだと言うことです。

「攻撃は最大の防御」の「攻撃」をも「防御」の変形として含めると、責めるも守るも両者共々「自己防衛本能の発露」です。

自分も含めて我が国国民は、上記の意味で、あまりにも「自己防衛本能が高すぎる」きらいがあるような気がしております。

再び、要するに、で恐縮ですが

中心線を大幅に超えて相手の領域深く踏み込んで「わーわー」騒いでおきながら、そこが相手の領域深くであり、更には土足で踏み込んでいる事にも一切気づかず、相手の当然の権利として、ちょっとでも中心線方向に押し戻そうと、相手から押し返されると、逆に「横暴よ」「理不尽な暴挙だ」と大騒ぎするのも、同根の発生源から出た産物のような気が致しております。

ちなみに後者は、今は崩壊して跡形もなくなってしまった「15 年前の我が家の絵姿」からの引用でございました。

私事からの引用、御免くださいませ。